



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ-イスラエル関係：両国関係に関するトルコ政府高官の発言

(3月26日付現地報道)

2010年5月30日、トルコ船籍のガザ支援船団が公海上でイスラエル軍によって攻撃され、トルコ人9名が死亡した事件について3月22日、イスラエルが正式に謝罪した。これを受けたトルコ政府高官の反応を26日現地メディアが報じている。その概要は以下のとおり。

1. (1) ダーヴトオウル外相は25日、イスラエルのリブニ法相と電話で会談し、両国の外務省間で近く、補償に関する協議を開始することで合意した。
(2) アルンチュ副首相は26日、両国政府間でのこの問題に関するプロセスが同日から開始されたと述べた。
2. (1) エルドアン首相は26日、AKP議員団の会合で、4月にヨルダン川西岸とガザを訪問する意向を明らかにした。ガザ地区への封鎖の現状を確かめ、人道状況を改善することが目的で、訪問には人道支援団体を伴うという。
(2) エルドアン首相はまた、ネタニヤフ首相との電話会談について、「自分はネタニヤフ首相に「我々は謝罪を受け入れる。我々は補償と封鎖に関しフォローアップする」と述べた、とした上で、今後我々は、この約束が守られるか否か状況を注視する」と述べた。
3. (1) ダーヴトオウル外相は26日、ドーハで記者団に対し、「我々は（イスラエルとの）関係正常化に当たって3つの条件を示してきた。すなわち、①謝罪、②補償、③ガザの封鎖解除、である。ネタニヤフ首相は正式に謝罪し、必要な措置がとられ封鎖は解除されるだろうと述べた」と発言した。
(2) またダーヴトオウル外相は、「パレスチナ側は、ガザの状況を改善するためにトルコと協力することを約束した」と述べた。
4. ギュル大統領は26日、「マーヴィ・マルマラ号事件（ガザ支援船団拿捕事件）は大きな過ちであり、我々は過ちが正されることを確信していた。イスラエルは果たさなければならないことを果たし、我々はこれに満足している」と述べた。